

エンターテインメント

ビジネスプロジェクター
導入事例

一般社団法人倶知安観光協会／株式会社CATCH22

使用機種:EB-L630SU×9台

用途:「NISEKO SNOW DOME EXPERIENCE」内での
プロジェクションマッピング

一般社団法人倶知安観光協会 所在地:北海道虻田郡倶知安町樺山41-5
最寄駅:JR函館本線「倶知安」駅よりバス。「ひらふ十字街」バス停下車徒歩約5分
ホームページ:https://www.niseko.co.jp/

株式会社CATCH22 所在地:北海道札幌市清田区平岡七条1-17-5
最寄駅:札幌市営地下鉄東西線「大谷地」駅より徒歩約10分

近年、旺盛なインバウンド需要を背景に冬のニセコが活況を呈している。そうした中、2024年度の冬に大型スノードーム(かまくら)を設置し、内部でプロジェクションマッピングを実施し、バーやDJイベントを行うスペースが登場。プロジェクションマッピングには、エプソン製プロジェクターが採用された。そこで、導入に至った背景や効果などについてを企画や運営を行った株式会社CATCH22の濱口さんに、機材の選定理由などについてをプロジェクションマッピングの設計や設置を行った株式会社ソルメティエージの丸山さんに伺った。



型番:EB-L630SU

価格:オープンブライズ

明るさ:6,000lm

解像度:WUXGA

レンズ:短焦点(TR0.8)



スノードーム内で行われたプロジェクションマッピング。スノードームはかまくら型で、金属製の枠に雪を吹き付ける方法で作られている。大きさは、高さ4m、幅6m、奥行き17mと大型で天井や壁に映像を投写。映像コンテンツも15種類が用意され、没入感の高い空間が演出された。バーが中心の夜間はもちろん、日中も多くの来場者で賑わっていた。

Before 導入課題

- 従来の照明演出に代わる、来場者が驚くような斬新な演出を行いたい
- 氷点下のスノードーム内でプロジェクションマッピングができるのか???
- 限られた台数や設置スペースだが、できるだけ明るくドーム全体に投写したい

After 導入効果

- 大型スノードーム内での本格的プロジェクションマッピングが実現
- 氷点下でのプロジェクターの安定稼働のために、海外製のプロジェクター保護ケース(メーカー非推奨、以降ハウジングと表記)の活用ならびに排熱の工夫などにより、氷点下でも問題なくプロジェクションマッピングができた
- 限られた台数でも十分な明るさで広範囲に投写することができた

「動きのある光の演出によりスキー場での新たな楽しみを提案できました」

導入背景

世界でも有数の大きなスノードームを生かす演出を模索

元はスウェーデンで雪と氷を使ったイベントなどを行う会社に就職し、独立してから20年弱が経過。自ら企画を行い、スポンサーを探しつつ雪と氷を使った、様々なイベントなどを実施してきました。

ここ数年、スノーリゾートではハイファッションブランドなどのポップアップが増えており、2023年からはニセコでも行われるようになりました。そうした大きなイベントができるスキー場は、世界でも数か所しかなく、その意味でもニセコは注目を集めているのです。

私たちは、これまでもニセコでスノードームを作ってきましたが、同じことを繰り返しても飽きられるため、内容を進化させて行く必要があります。そこで今回は、従来、照明を入れるだけだったスノードーム内で

プロジェクションマッピングが行えないかと考えました。

ただし、スノードームは、構造物としてはしっかりしているが、多少は雪がはがれたり、自重で沈んできたりするため、投写面としての精度が問題ないかや、プロジェクターがどの程度の熱を出すのかといった問題点や疑問点がありました。そこで、以前に知り合った丸山さん

に相談したところ、エプソン製プロジェクターなら、コンパクトで発熱も少なく、この企画に適しているのではないかと助言をいただきました。

濱口さんによると「おそらく世界初のスノードーム内での本格的プロジェクションマッピングだ」とのこと。そのため、分からないことも多かったが、観光庁や(一社)倶知安観光協会の協力も得られ、挑戦することに決めたといいます。



スノードームの外観。多くのスキー場は、スキーと食事以外の楽しみが少なく、以前からスノードームを活かして多くのお客様が楽しめる場所を提案できないかと考えていたとのこと。実際、日中には子どもたちを連れた家族なども多数訪れ、スノードーム内のプロジェクションマッピングに驚き、歓声をあげていた。



本イベントは、海外の高級洋酒メーカーがスポンサー。プロジェクションマッピングを見ながら、有料でデキールを楽しむこともでき、写真のように氷のグラスでデキールを提供するサービスも。世代問わず多くの方が楽しめるスペースになっていた。



株式会社CATCH22 代表取締役 濱口綱道さん

選定理由

輝度だけでなく、大きさや発熱量、コストなどを考慮してベターな機種を選定しました

これまでもエプソン製品を数多く使ってきており、その安定性や堅牢性、画質の良さなどの面で信頼性は抜群です。しかも、コスト面での優位性もあるため、企画の初期段階からエプソン製品一択でした。特に本企画は、氷点下のスノードーム内でのプロジェクションマッピングです。私にとっても未知の領域であり、おそらく世界初の試みです。それだけに、信頼

できる機材を使う必要がありました。

事前に計画図面を引きましたが、初の試みで実施までの時間も限られており、実際の現場で柔軟に対応する必要がありました。そこで、エプソンの映像システムソリューションのご担当者様に相談したところ、低発熱なレーザー光源と短焦点レンズを採用しつつ、コンパクトで十分な輝度も得られるEB-L630SUをご提案いただき、短納期での用意も可能とのことで、本機を採用することにしました。



株式会社ソルメティエージ
代表取締役
丸山健太さん

実際、現場で大幅な設計変更を行い、当初計画していた天井から吊ったり、台に設置したりするのではなく、ハウジングや木枠を使用して雪の壁面に埋め込むという、スノードームならではの設置方法を採用しました。結果、ハウジングや木枠を使うため、排熱の工夫が必要でしたが、約3か月のイベントの間、大きなトラブルなく使用しました。



木枠を広めにして排熱ができるように工夫し、雪の壁面に埋入。投写面までの距離を長くでき、少ない台数でドーム全体に映像を投写できた。



かまぼこ型ドームの前後となる直立した壁面用の機材。ハウジングを使用し台の上に設置した。合計9台（予備1台）で床以外の全面に投写。

導入効果

ドームに入って驚かれる方も多く、スキー以外の楽しさを提供できました

プロジェクションマッピング実施の効果について濱口さんに伺いました。実施は看板で告知したのですが、看板よりも先にスノードームを見つけて来場される方が多くいらっしゃいました。そのためドームの中に入って大変驚かれ、感嘆の声を上げる方が多かったのが印象的でした。

バーやDJイベントを行うことを軸に考えていたため、初期段階では夜間みの開場のつもりだったのですが、アジア圏の方を中心にスキーのライトユーザーも多いため、昼間も開場することにしました。それにより、子ども連れの家族などからも好評で、想定していた以上に幅広い層の皆様楽しんでいただくことができました。

DJイベントでは数十人の方が集まり、ドーム内に入りきらない程でしたが、イベントを実施していない場合でも15種類のコンテンツを用意したこともあって、常に数人から10人程度の方が来場している状態でした。酒類（テキーラ）の売り上げも十分以上にあり、私たちとしても成功したイベントになりました。



映像を投写するために、設置時に汚れない白い雪を大量に用意して吹き付けたという。天然の雪だけで作られた大型スノードームは珍しく、12月までに大量の雪が降るニセコならではの。ドームの外は氷点下だが、ドーム内は比較的暖かく、多少の雪が解けたり、はがれたりすることもあったが、雪を足すことで解決。色鮮やかな映像を投写できるほか、単色の光を投写することでプロジェクターを間接照明の代わりとしても活用。



床面以外の全面に映像が投写されるため、没入感のある映像が楽しめる。コンテンツのコンセプトは、自然を感じられる映像。これに加えて、スポンサーのイメージに合った映像が流れるようになっている。イベント時以外は、ドーム内の中央付近にフェイクファーのマットが敷かれ、座ってゆっくりと映像を楽しめる。一方でDJイベントのときには、数十人の方が来場し、ドームの外で待ついただく程、賑わっていた。

今後の展望

インタラクティブなプロジェクションマッピングにも挑戦したい

今後の展望について、濱口さんに伺いました。今回のイベントで、プロジェクターの活用の仕方や、活用時の注意点などを学ぶことができました。そこで今後は、もう一歩踏み込んで、インタラクティブなプロジェクションマッピングができればと考えています。例えば、お客様が氷を持ち上げたり、置いたりする操作に反応するものや、グラスをテーブルに置いたときに反応するものなどを現時点ではイメージしています。

これまでに、雪や氷を扱うことで「温度」を表現することができましたが、今回のプロジェクションマッピングの導入により、「光」を表現することも可能になりました。そこで次は、これらに加えて「音」や「空気の振動」を表現できないかと考えています。視覚や触覚などの人間の感覚に根差した「新しいもの」は、絶対評価に繋がると私は考えているので、今後もそれらを追求して行きたいと思います。

導入の
ポイント
機能



レーザー光源が
もたらす
明るさと
高コントラスト



全白
6,000lm
カラー
6,000lm

3LCD方式
ならではの
色再現性と
明るいカラー

短焦点
レンズ

短い
投写距離で
大画面

お問い
合わせ

プロジェクターインフォメーションセンター
050-3155-7010

製品に関するご質問・ご相談に電話でお答えします 受付:月～土曜日（祝日・弊社指定休日を除く。詳しくはホームページをご覧ください）
*左記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスを利用しています。*左記番号がご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本、NTT西日本の固定電話（一般回線）からおかけいただくか、042-503-1969までおかけください。